

H 池辺の杜寺と谷戸をめぐるコース



1 星谷浅間神社 (池辺富士)
寛政8年(1796)に造られた富士塚。周囲は畑で、野菜が栽培されている。池辺富士の山頂に向かう真っ直ぐな階段を登ると、頂上には石祠と手水鉢がある。山頂からの富士山や丹沢連峰の眺めは素晴らしい。



2 東方公園
池辺農業専用地区と東方農業専用地区に挟まれ、大小のグラウンドのある公園。広いグラウンドの周りを桜の木が取り囲み、春になると見事な桜のトンネルが見られる。



3 坊方道
念仏寺のある所から池辺保育園、都田幼稚園までの道は、坊方道と呼ばれている。ここは昔の景観をほぼそのまま残している。昼でも暗い切り通しと尾根伝いの農地、竹林など鎌倉や京都の郊外に似た風情がある。



4 八所谷戸公園と八所神社
尾根道のかたわらにアスレチック遊具が整備されている八所谷戸公園がある。この公園の近くに八所神社があるが、神社に行くには公園から車道へ出て、左手の参道を登る必要がある。



5 サイの神様
八所谷戸の坂の途中でサイの神様とよばれている道祖神が立っている。道祖神は外からの疫病や悪魔を防ぐ神様、旅の安全を守る神様、縁結びの神様ともいわれ、現在も地元の人々に親しまれている。



6 牧野よしが開いた英語塾跡
安政6年(1859)に来日したヘボン博士と妻のクララは、宣教師の仕事、聖書の翻訳、診療所での治療などで多忙であった。推薦されてヘボン博士邸に入った牧野よしは英語を学び、ヘボン博士が帰国後は池辺に戻り、八所谷戸の小泉家の場所に英語塾を開いた。38ページ参照。【非公開】



7 福聚院
高野山真言宗、本尊は不動明王。開創年は天文23年(1554)で白壁の塀づたいに行くことと山門がある。樹齢350年以上の大銀杏、樹齢300年以上のサルスベリの他、しだれ梅の古木もある。境内に池辺出身の三留嘉之が開いた三留義塾の碑がある。



8 阿弥陀堂の嶋村文耕の墓
明治6年(1873)に池辺村に遷卒(現在の巡査)が配属された。この遷卒が、明治の文学者島村抱月の養父嶋村文耕である。阿弥陀堂の境内に島村抱月が養父嶋村文耕のために建てた墓碑がある。38ページ参照。



9 観音寺
高野山真言宗、本尊は聖観世音菩薩。開創年は寛文11年(1671)で境内に大きな蛙の石がある。昔、娘が神隠しにあった老婆が、必ず帰ってくるようにとの願いを込めて蛙の絵を奉納したところ、しばらくして娘が戻ると伝えられている。

地名の由来

川和(かわわ)
古い書物には「河輪」、あるいは「川輪」と書かれていた。八幡神社の側を流れる川が、曲がりくねって輪になっていることから名づけられた。

上サ(かさ)
昔、花山天皇(985年頃)が八幡様にお参りされた時、この地区に立ち寄られたことから花山が上山となり、上サとなまって呼ばれるようになったという。その他にも、町の中心より上にある地区ということから上村と呼び、上サというようになったとも言われている。

見花山(みはなやま)
昔、川和は5つの村と接していて、山林などは測るのが難しく、土地の境界のことで争いが絶えず、見花山(けんかやま)と呼ばれていたという。その他にも、川和富士があり、お花見の場所として親しまれていたため、見花山と呼ばれるようになったという説もある。

貝の坂(かいのさか)
昔は切り通しでなく峠になっていた。この峠道に夜な夜な怪しいなり声が地中からもれ、通る人をおびやかした。村人が掘ってみると大きな貝が出たので貝の坂と呼ぶようになった。

佐江戸(さえど)
もとは西土と書いたが、後に「左江戸」から「佐江戸」になったといわれる。

池辺(いこのべ)
宗忠寺の前に大きな池があったので、池辺といわれた。なお、最近では「いけべ」と言われることが多い。

東方(ひがしがた)
池辺村の東に位置していた数戸の集落に付けられた字だった。